

第 86 回クラシックを楽しむ会

2024 年 4 月 28 日(日)18:00～(2 時間 43 分)

タイトル : 喜歌劇「こうもり」(ヨハン・シュトラウスⅡ)

会場等 : バイエルン国立歌劇場

2023 年 12 月 28・31 日

楽団等 : バイエルン国立歌劇場管弦楽団

合唱 : バイエルン国立歌劇場合唱団

指揮 : ウラディーミル・ユロフスキー

演出 : バリー・コスキー

出演 : アイゼンシュタイン:ゲオルク・ニグル

ロザリンデ:ディアナ・ダムラウ

オルロフスキー侯爵:アンドリュー・ワッツ

ファルケ:マルクス・ブリュック

アデーレ:カタリナ・コンラディ ほか



第 2 幕 アデーレにからかわれるアイゼンシュタイン

語のあらすじ

主人公はウィーンの裕福な銀行家アイゼンシュタイン。彼の悪戯で恥をかかされた友人ファルケ博士が、彼に仕返しをするという筋。内容は決してシビアな復讐劇ではなく、あくまで”お気楽”なドタバタ喜劇。

名曲のかずかず

第 1 幕アルフレートはロザリンデを想って「飛び去った小鳩は」を歌う。

第 2 幕アイゼンシュタインを紹介されたオルロフスキーは「お客を招くのは私の趣味で」を歌う。アデーレは「侯爵さま、あなたのような方は」を歌ってアイゼンシュタインをからかう。ハンガリーの伯爵夫人に変装したロザリンデはハンガリーの民族舞踊「チャールダーシュ」を歌う。

第 3 幕女優になりたいアデーレは「田舎娘に扮するときは」を歌い、最後はロザリンデの歌う「シャンパンの歌」で大団円に。

過去の上映記録

今回の演目は 3 回目、4 年ぶりの上映。

第 17 回(2014 年 12 月)

ヘルマン・プライ、キリ・テ・カナワ、ヒルデガルド・ハイヒェレ

コヴェント・ガーデン王立歌劇場、ドミンゴ指揮 (1983 年上演)

第 71 回(2020 年 1 月)

エーベルハルト・ヴェヒター、パメラ・コバーン、ジャネット・ペリー

バイエルン国立管弦楽団、カルロス・クライバー指揮 (1986 年上演)



第 87 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル: 歌劇「ドン・カルロ」(ヴェルディ)

5 月 26 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ミラノスカラ座 2023 年 12 月上演。リッカルド・シャイー指揮。リュイス・パスクアル演出。

出演:フランチェスコ・メーリ、ルカ・サルシ、アンナ・ネトレブコ、エリーナ・ガランチャ 他

当代を代表する歌手陣をこれほどそろえた本公演は必見!

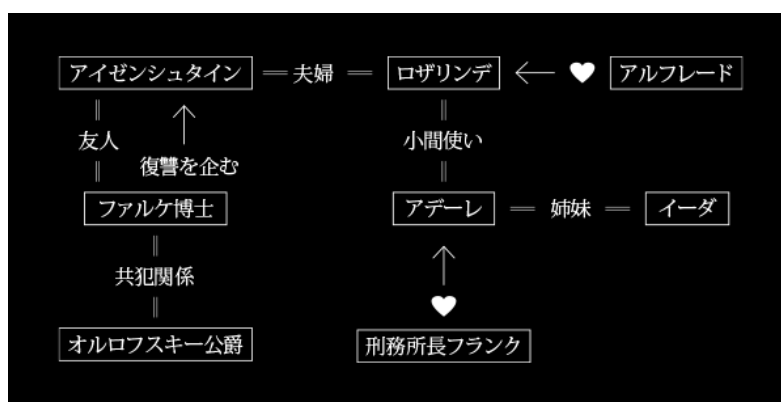
あらすじ

【時と場所】

19 世紀半ば過ぎのオーストリア。ウィーン郊外の温泉保養地バート・イシュルなど

【登場人物】

アイゼンシュタイン (T/Br)	裕福な銀行家。刑務所に入る前に憂さ晴らしに夜会へ
ロザリンデ (S)	アイゼンシュタインの妻。夫の浮気を見定めるため夜会へ
アデーレ (S)	ロザリンデの小間使い。女優を夢見て夜会へ
イーダ (S/台詞)	アデーレの妹 (または姉)。バレエダンサー
オルロフスキー公爵 (Ms/T)	ロシアの大貴族で遊び人。夜会を主催
アルフレート (T)	音楽教師でロザリンデの昔の恋人。アイゼンシュタイン男爵の身代わりにされて刑務所に
ファルケ博士 (Br)	アイゼンシュタインの友人。アイゼンシュタイン男爵が原因で「こうもり博士」とあだ名され復讐を計画
刑務所長フランク (B/Bs)	夜会に出席してフランスの騎士に成りすます



引用元は東京二期会「ベルリンの『こうもり』、東京に舞い降りる」ページ

【第 1 幕】新興の裕福な銀行家アイゼンシュタイン邸の一室

アイゼンシュタインは公務執行妨害のかどで刑務所に入らねばならず苛立っているが、収監前の気晴らしに、と友人ファルケからオルロフスキー公爵邸の夜会へ誘われる。一方、小間使いアデーレも姉イーダから夜会に誘われていて、どうにかして出かけるため「重病の叔母を見舞うため休みがほしい」とひと芝居を打つ。アイゼンシュタインの妻ロザリンデは夫の不在を寂しがすが、その間に昔憧れたテノール歌手アルフレートと情事を楽しもうと企んでいる。3 人は表向き悲しみに暮れているが、本心はウキウキ。夫の外出後ロザリンデはさっそくアルフレートと楽しもうとしたとき刑務所長フランクが来て、アルフレートをアイゼンシュタインと思い込んで収監してしまう。

【第 2 幕】ロシアの大貴族で退屈している遊び人オルロフスキー公爵邸の大広間

オルロフスキー公爵の夜会。アイゼンシュタインとフランクが鉢合わせするが、お互いフランスの貴族だと自己紹介し、しどろもどろのフランス語で意気投合する。ロザリンデのドレスを拝借したアデーレは、女優になりすまして登場。仮面をつけたハンガリーの貴婦人がやってくるが、実はロザリンデ。正体に気づかないアイゼンシュタインは口説こうとするが、小道具の懐中時計を彼女に奪われてしまう。シャンパンで乾杯し、宴もたけなわ。朝 6 時の収監の時間になり、アイゼンシュタインとフランクは大慌てで館をあとにする。

【第 3 幕】刑務所内

刑務所。夜会の余韻に浸るフランク。アイゼンシュタインは、収監されるために刑務所に行くと、フランクがいてびっくり。お互い正体を明かすが、すでに自分が収監されていると聞き、驚き怒るアイゼンシュタイン。そこにロザリンデがやってきた。アイゼンシュタインは妻の不貞を責めるが、彼女は例の懐中時計を差し出す。ここでファルケが、すべては自分が仕組んだ“こうもりの復讐”だったと種明かし。ロザリンデの “全てはシャンパンの泡のせいね” で茶番劇はにぎやかに幕となる。

出演

ゲオルク・ニグル(1972-)は、オーストリアのバリトン歌手。1980年代にウィーン少年合唱団の来日公演でソプラノ・ソリストを務めた。現在、シュトゥットガルト国立音楽舞台芸術大学の声楽教授。

ディアナ・ダムラウ(1971-)はドイツのソプラノ歌手。ミラノ・スカラ座、コヴェント・ガーデン、メトロポリタン歌劇場に出演。バイエルン宮廷歌手で、科学芸術勲章、功労勲章授与。コンサート歌手としても現代最高の指揮者や歌手と共演を重ねている。

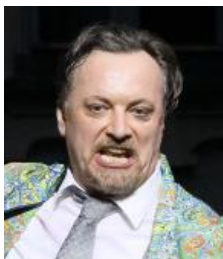
マルクス・ブリュック(不明-)はドイツのバリトン歌手。2001年にベルリン・ドイツ・オペラのアンサンブルに加わり、2011年に宮廷歌手の名誉称号授与。ハンブルク国立歌劇場、パリ国立オペラ座、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場の他、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルク音楽祭に客演。

カタリナ・コンラディ(1988-)はキルギス共和国※の首都ビシュケク出身のオペラ・ソプラノ歌手で、2018年からハンブルク国立歌劇場に所属。世界の主要なオペラハウスに出演。歌曲歌手としても知られている。ドイツで最も裕福な村の1つとして有名なデトリンゲン在住。

※キルギス共和国は、かつてのシルクロードに位置する中央アジアの旧ソ連邦の国家。カザフスタン、中華人民共和国、タジキスタン、ウズベキスタンと国境を接する。



ニグル少年



ゲオルク・ニグル
(アイゼンシュタイン)



ディアナ・ダムラウ
(ロザリンデ)



マルクス・ブリュック
(ファルケ)



カタリナ・コンラディ
(アデーレ)

ウラディーミル・ユロフスキー(1972-)はロシア生まれのドイツの指揮者。グラインドボーン音楽祭の音楽監督、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者・名誉指揮者、ロシア国立交響楽団の芸術監督、ベルリン放送交響楽団首席指揮者などを務め、現在バイエルン国立歌劇場音楽総監督。

バリー・コスキー(1967-)はオーストラリアの舞台・オペラ演出家。2000年代からはオーストラリアの他、ウィーン国立歌劇場などヨーロッパの主要歌劇場で演出・舞台監督を務めている。作品の大胆な再解釈を行いながら多彩な色、動き、手法を用いた鮮やかで審美的な舞台で知られる。2024年にドイツ連邦共和国功労勲章を授与された。



ウラディーミル・ユロフスキー



バリー・コスキー

「こうもり」の登場人物とその時代

アイゼンシュタインはドイツ語で「鉄の石」。「普墺戦争」(1866年)でオーストリア帝国を破ったプロシアの鉄血宰相ビスマルクを連想させる。ファルケはドイツ語で鷹。落日のハプスブルグ家紋章の双頭の鷲を連想させる。

プロシヤに大敗したオーストリアは帝国内諸民族「妥協」のオーストリア＝ハンガリー二重帝国を成立(1867年)させる。ロザリンデはウィーンのリッツを歌い、ハンガリー貴婦人に扮してチャールダシュを歌う。これに対して小間使いアデーレは(自治のほとんど認められなかったチェコ)のポルカを歌い、女優に扮してワルツを歌う。オルロフスキー公爵のロシアはバルカン半島を巡ってオーストリアと対立中。

なお、「こうもり」のもともとの原作はドイツの喜劇。オッフェンバックの喜歌劇を手掛けたメイヤック等がパリを舞台にしたヴォードヴィル(歌と対話を交互に入れた通俗的なフランス喜劇の一形態)に仕立て、シュトラウスの協力者ジュネー等がこれをドイツ語に翻案して舞台をウィーンに移した。1874年初演当時のウィーンは「世紀末ウィーン」と呼ばれる芸術・文化面の絶頂期。前年の岩倉使節団も見学したウィーン万博は、開幕直後に経済恐慌に見舞われた。

「こうもり」の独唱曲「クープレ」について

オペラの独唱曲は通常「アリア」であるが、「こうもり」ではほとんど「クープレ」。音楽用語「クープレ」は「ロンド形式」のなかで使われるが、「こうもり」の「クープレ」は英語の「カップル」と同じ語源で、歌詞が二行連句(対句)の意味。歌詞の行ごと、または一行おきに脚韻を踏む。第2幕でオルロフスキーの歌う奇妙な旋律のクープレ「僕はお客を招くのが好きで」の最初の4行を原詩と訳で示す。

Ich lade gern mir Gäste ein,(アイン)
man lebt bei mir recht fein,(ファイン)
man unterhält sich wie man mag,(マーク)
oft bis zum hellen Tag.(ターク)

私は、客を好んで招待する。
私と共に過ごすのはとても素晴らしい。
人々は望みどおりに談笑する
しばしば明るくなるまで。

©小平・市民オペラ協会のページから一部引

上記の他、アデーレが第2幕で歌うクープレ「公爵様、あなたほどのお方なら」、同じく第3幕で歌うクープレ「田舎娘に扮するとき」はともにコロラトゥーラ技法をちりばめた名曲である。

「こうもり」とワイン

喜歌劇「こうもり」には全幕「ワイン」がでてくる。台本をみると字幕だけでは分からない高級ワインのがでてくる。第1幕アルフレードは強い酒が好きと言いながら「酒の歌」では単に「ワイン」。第2幕オルロフスキーがアイゼンシュタインに「マデイラワインを飲むか?」。ロザリンデがチャールダーシュで「トカイワインの炎をあおれば」。給仕がアイゼンシュタインに「シャトーラロワに致しますかそれともシャンパン?」。第3幕フロッシュが「それにこのスリヴォヴィッツ、こいつがまたうめえんだ!」。

マデイラワイン

ポルトガル領マデイラ島で造られるブランデーを添加した酒精強化ワインで、シェリーやポートワインと並んで、世界3大酒精強化ワインの1つ。



マデイラワイン



トカイワイン



スリヴォヴィッツ

トカイワイン

ハンガリーのトカイ・ワイン地区で作られる貴腐ワインである。秋から冬にかけて濃い霧が発生しブドウ畑全体を包み込み、貴腐菌というカビに侵された白ブドウが作り出される。貴腐菌は水分を外に出し、糖분을濃縮させることで、とても甘いブドウになる。世界3大貴腐ワインの一つ。

スリヴォヴィッツ

東欧・中欧のスラヴ諸国で広く飲まれている、スモモの一種ダムソン・プラムから造られる蒸留酒。プラム・ブランデーと呼ばれることもある。本公演では第1幕で字幕にスモモ酒!がでてくる。